

Fergus Mason
ファーガス・メイソンの
新七尾体験記

能登島水族館
イルカ飼育体験



Michelle Barriga
国際交流員 ミシェル・バーリガより
市民のみなさんへ 最後のごあいさつ



3年前の自分を振り返って：田鶴浜出身の担当者として初めて空港で会った時のことです。目が合った瞬間！「ミシェル、ヘンマ食う？」え？ヘンマって何？こっつて本当に日本？日本語が足りないのかなあ？と車に荷物を乗せながら悩みました。3年間があつという間に経ち、

残念ながらこれ以上は国際交流員として再契約が出来ない私は、自分の足でこれから新しい道に踏み出します。今では「ヘンマ」というのがお昼ご飯のことだと分かり、時々私の口からも出てきます！3年間どうもありがとうございました。今の私が有るのはすべて皆様のおかげだと思ひ、心から感謝致します。就職が決まりましたので7月の下旬から東京での新しい生活が始まります。最後になりますが皆様に祝福の祈りを述べさせていただきます。あなた方に道が拓かれ、風はいつも背に、顔には太陽が暖かく、野にはやさしく雨が降りますように。再び会うその時まで、神のご加護がありますように。

子どもたちに「将来何になりたい」と聞くと、スポーツ選手や、パイロット、動物の飼育係という答えが返ってきます。今回、私はその憧れの職業の一つ飼育係に挑戦しました。飼育係というと、毎日かわいい動物たちと触れ合える楽しい職業というイメージがあります。私もワクワクしながら水族館に向かいました。世話をするのは初めてです。飼育係の方に教えてもらいながらはじめました。初心者私たちにできることは掃除と洗いの物。でも、その仕事をしていると、イルカが近づいてきて顔が触れるくらいの距離で見

ることができません。動物には独特の臭いがあります。イルカは全然臭くありません。近くで見ると姿は本当にかわいくて僕より賢そうでした。イルカの飼育員の方からいろいろなることを教えてもらいました。イルカの鳴き声は口ではなく頭の後ろの潮を吹く穴（鼻）から出します。魚を食べる時はまる飲みするので歯は噛むためではなく魚を捕まえるためにあるそうです。もちろん、水族館にいるイルカは生きて魚を食べています。餌の魚はアジカサバで、丸ごとやるか輪切りにします。魚は良く洗い、水につけておきます。その理

由は、イルカは魚から水分を取っているため、乾いた魚を食べさせると脱水症になるからだそうです。一見華やかで楽しそうに見える職業ですが、1日何度もの餌やりと清掃、動物たちの健康管理と、とても大変で重労働だと思いました。能登島水族館はイルカだけではなくたくさん海の生き物がいます。水槽の中にある生き物だけでなく水族館のまわりの環境もぜひ見てください。能登半島の素晴らしい景色の真ん中でイルカと触れ合えるひと時を過ごすことはとても素晴らしい経験だと思ひます。

国際交流イベント

「料理の達人」外国料理対決！栄冠は誰の手に!?
料理の達人（定員24名）
フィリピン・ルクセンブルク・アメリカ・中国4ヶ国の外国人が料理をし、料理の達人をみなさんが決める！
場所：サンライフプラザ 栄養実習室
日時：7月15日（金） 18：30～20：30
参加費：1,500円（飲食代）
先着順（各定員になり次第、締めきり！）

外国人といっしょに、七尾港まつり
市民総踊りに参加し、日本文化に触れよう！
Shall we dance?
7月17日（日）19：00までに市役所前集合！
踊りの練習やゆかたの着付け（当日17：30～）等も行います。詳しい日時等は、お問い合わせ下さい。
雨の場合は翌日に開催されます。
集合時間等は同じ時間となります。

お申し込み・お問い合わせは
（電話、ファックス、E-mailにて。）
本庁 男女参画まちづくり課
☎53 8448 FAX54 8117
E-mail：international@city.nanao.lg.jp